



さかもと

さわやかに かがやいて もくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.educity.yokohama.lg.jp/school/es/sakamoto/>

災害に強く、人に優しいまち ～一人ひとりが意識を高めて～

副校長 柴田 耕治

6月某日、区役所で保土ヶ谷区地域防災拠点管理運営委員会連絡協議会が行われました。その中で、参加者の一人が『ハザードマップ』や『わが家の地震対策』など、役立つパンフレットがあるが、多くがゴミになっている。配付の仕方がよくない。業者に委託してポストに入れるだけでは、区民一人ひとりに意図が伝わらない。」と訴えていました。趣旨は、自治会・町内会のネットワークを生かして、大事な情報を役立ててもらえるように配付した方が意味があるということです。一方、自治会・町内会に所属していない方もいるため、行政側は全世帯のポストに漏れなく配付するという方法をとっているのです。

しかし、どんな配付の方法をとっても、受け取った側の意識次第で、それが命を守るヒント集にもなれば、古紙にもなります。意識次第…。意識し続けるということは難しいです。

「喉元過ぎれば熱さを忘れる」と言いますが、東日本大震災から4年以上が過ぎ、私たち横浜市民の防災に対する意識は、かつての高さを維持できているのでしょうか。

今後30年以内に震度6弱以上の大地震に襲われる確率は、横浜市が78%で最も高いと発表されています。一方、そう聞いても何だかピンとこない自分がいるのも事実です。

先日、星の丘ビューシティ会議室で地域防災拠点管理運営委員会が行われました。今後の地域防災拠点動員訓練の在り方もより良い形を求めていくこととし、学校の年間行事も一部見直しを図ります。地域防災拠点動員訓練は、今後、次のような要領で実施します。

開催年度	開催日	小学生の参加	実施形態	メリット
偶数年度	土曜日	全員参加	授業扱い	1000人を超える避難民の受付の模擬体験が可能となる。体験コーナー充実。
奇数年度	日曜日	自由参加	授業なし	避難所の開設を主眼に置いた防災訓練に集中できる。避難生活への対応。

今年度は、日曜開催となります。4月17日付の年間計画を改め、10月24日(土)の地域防災訓練(授業)は学校は休業となり、26日(月)の振替休日でもありません。通常授業を行います。その代わりに、25日(日)に坂本小学校地域防災拠点動員訓練が行われます。これは任意参加となりますが、保護者の皆様におかれましては、地域住民の一人として、お子さんと一緒に、是非ご参加ください。

避難所の開設に向けては、様々な課題が指摘されています。全員が「被災者」である中で、本当に援護が必要な方を支えられる援護者の一人、避難所を運営する一人になれるかということがあります。

横浜市身体障がい者連盟の方から「耳の聴こえにハンディのある人の中には、ハンドマイクでどんなに大声で指示をされても分からない人もいます。避難生活の中で聴こえないこと、分からないことが続き、それが苦しくて、倒壊の危険があっても自宅にいたほうが楽と考える人もいます。」と聞きました。障がい者への理解だけでなく、日頃のご近所付き合い、自治会活動、地域交流によって、お互いを知っているということは、災害時の支え合いの具体的な場面で、生きて働くことは間違いありません。

挨拶を大切に、地域の方々との交流を繰り返し行っている坂本小学校の子どもたち、そして、その学校生活をボランティアとして支えてくださっている多くの保護者のつながりは、いざというときに、困難を乗り越える力となって必ず生きてくるはずです。

子どもは大人の背中を見て育つ。私たちの大人の意識は、いつか子どもたちに通じます。